

## 第5章 学校関係

### 1 学校に通う意義・評価

#### (1) 学校に通う意義

Q48 【F5で「1」「2」と答えた、学校へ行っている人に】

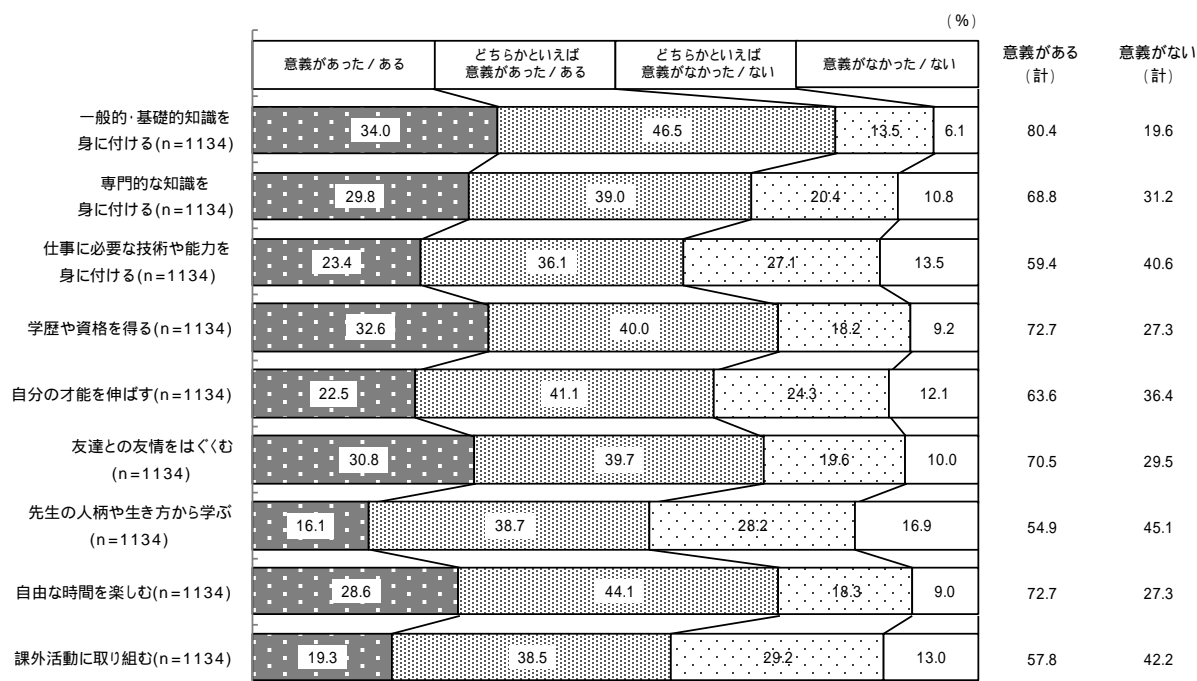
あなたにとっての学校に通うことの意義についてうかがいます。現在通っている学校について、以下の中からあてはまると思われるものをそれぞれ1つ選んでください。

(回答はそれぞれ1つずつ)

【F5で「3」「4」と答えた、学校へ行っていない人に】

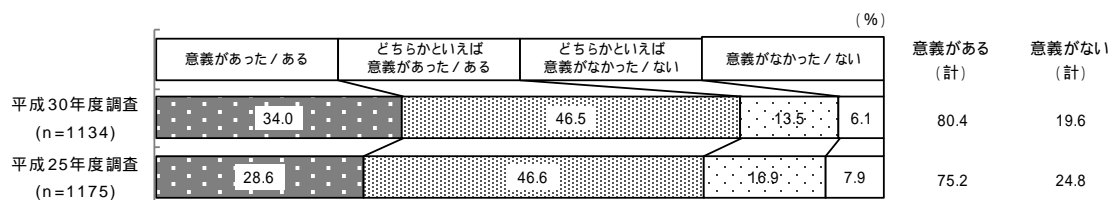
あなたにとっての学校に通うことの意義についてうかがいます。最後に通った学校について、以下の中からあてはまると思われるものをそれぞれ1つ選んでください。(回答はそれぞれ1つずつ)

学校に通う意義について日本の若者に聞いたところ、『意義がある』(「意義があった/ある」と「どちらかといえば意義があった/ある」の合計)と答えた割合は、「一般的・基礎的知識を身に付ける」(80.4%)が最も高く、次いで「学歴や資格を得る」「自由な時間を楽しむ」(それぞれ72.7%)、「友達との友情をはぐくむ」(70.5%)となっている。

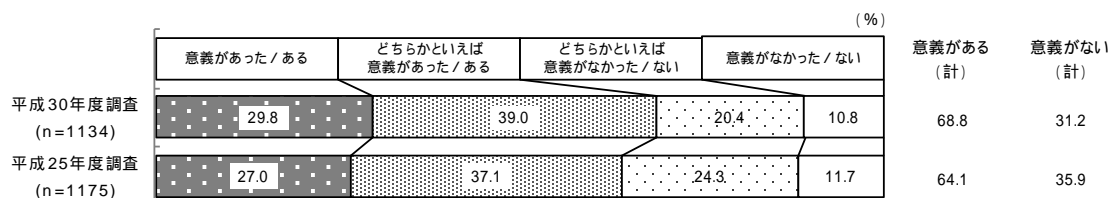


日本について平成25年度調査と比較すると、『意義がある』と答えた割合は、「一般的・基礎的な知識を身に付ける」で5.2ポイント高くなっている。一方、「友達との友情をはぐくむ」では5.4ポイント低くなっている。

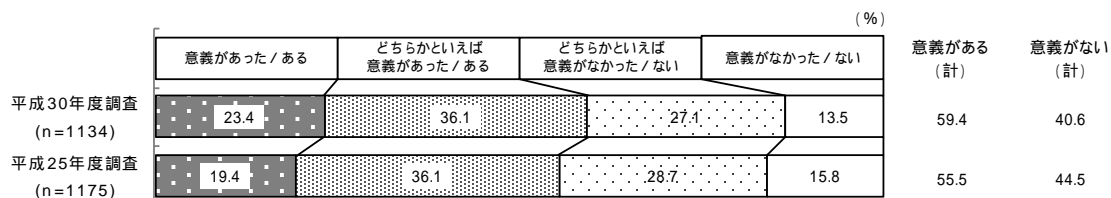
Q48 (a) 一般的・基礎的知識を身に付ける



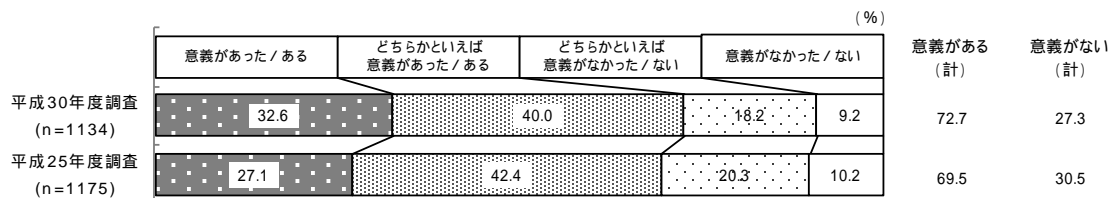
Q48 (b) 専門的な知識を身に付ける



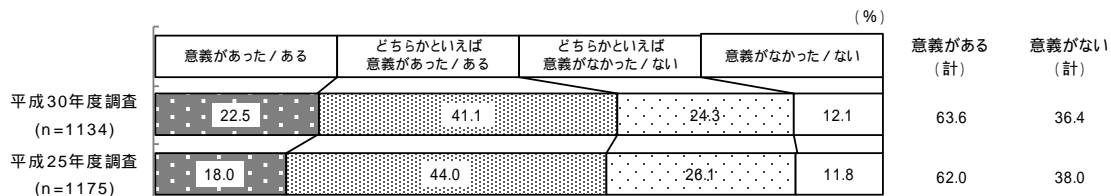
Q48 (c) 仕事に必要な技術や能力を身に付ける



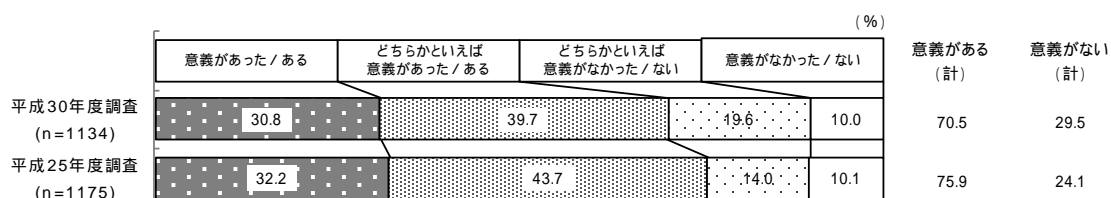
Q48 (d) 学歴や資格を得る



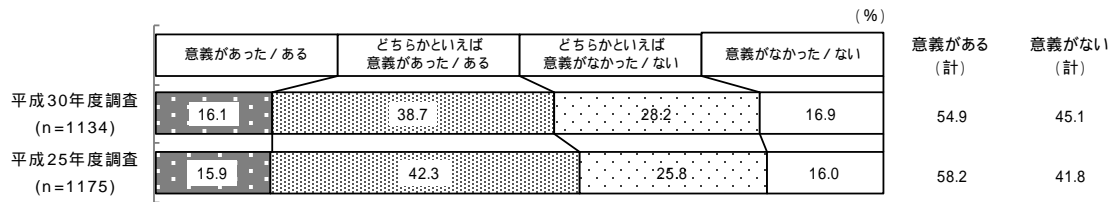
Q48 (e) 自分の才能を伸ばす



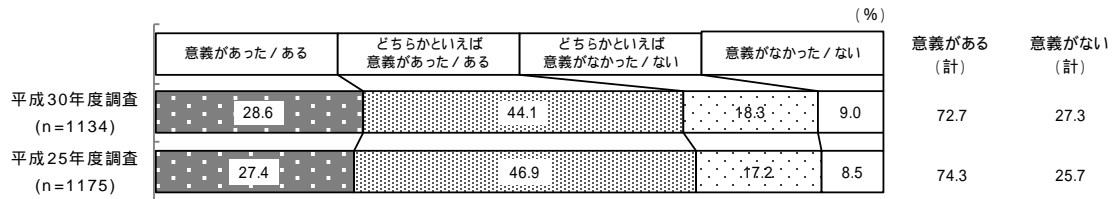
Q48 (f) 友達との友情をはぐくむ



Q48 (g) 先生の人柄や生き方から学ぶ



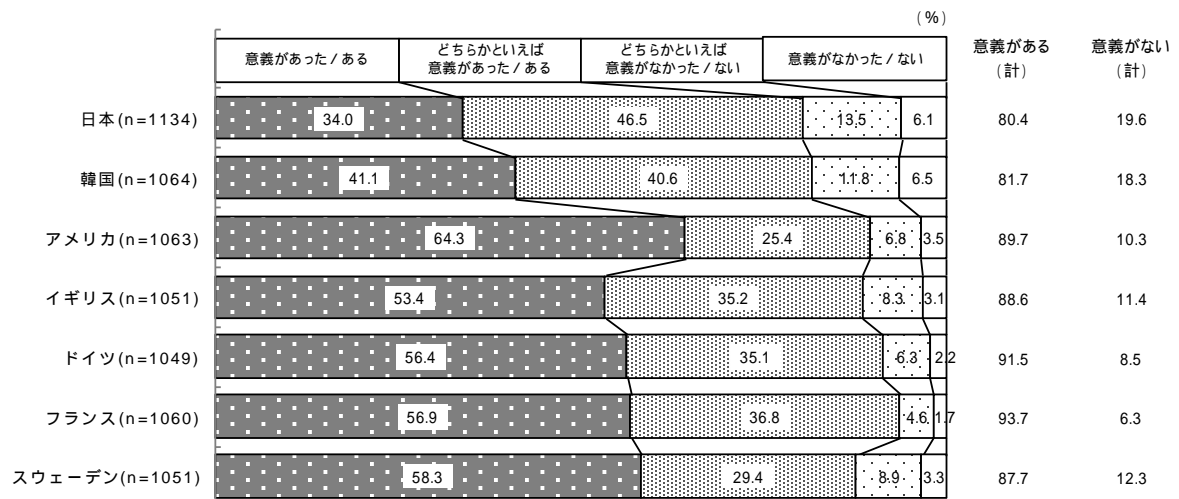
Q48 (h) 自由な時間を楽しむ



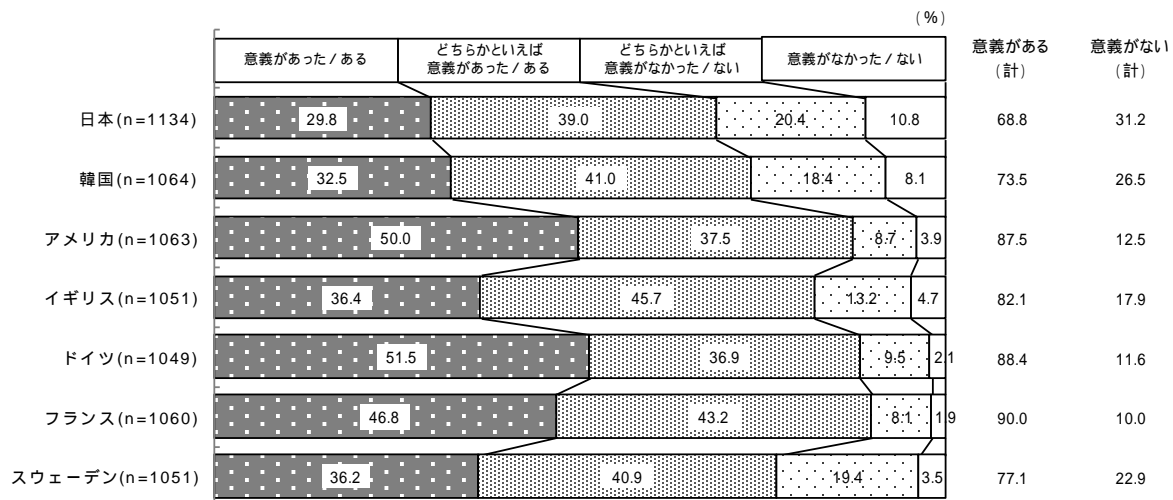
「Q48 (i) 課外活動に取り組む」は平成30年度調査からの新規項目のため、平成25年度調査との比較はない

【国別】

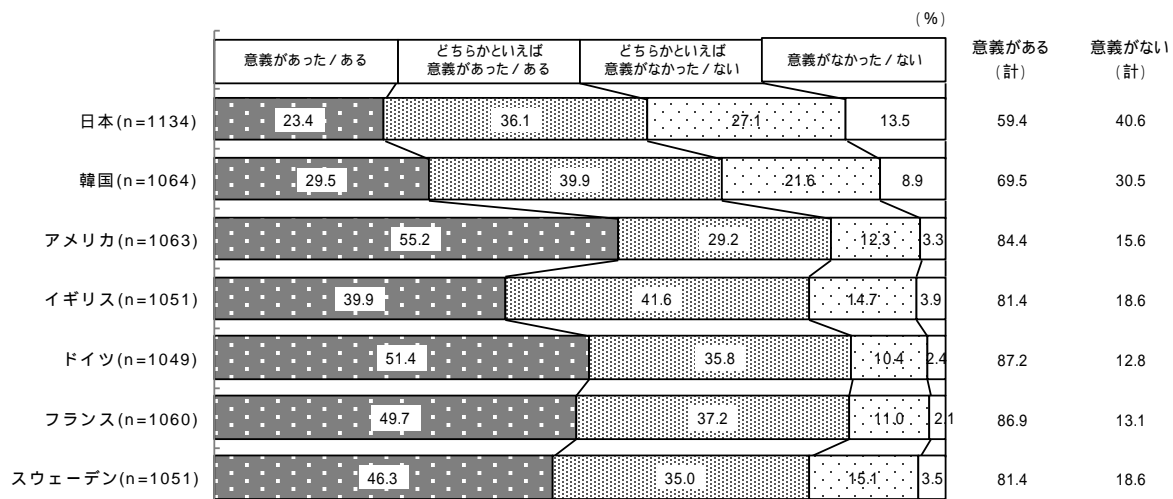
Q48 (a) 一般的・基礎的知識を身に付ける



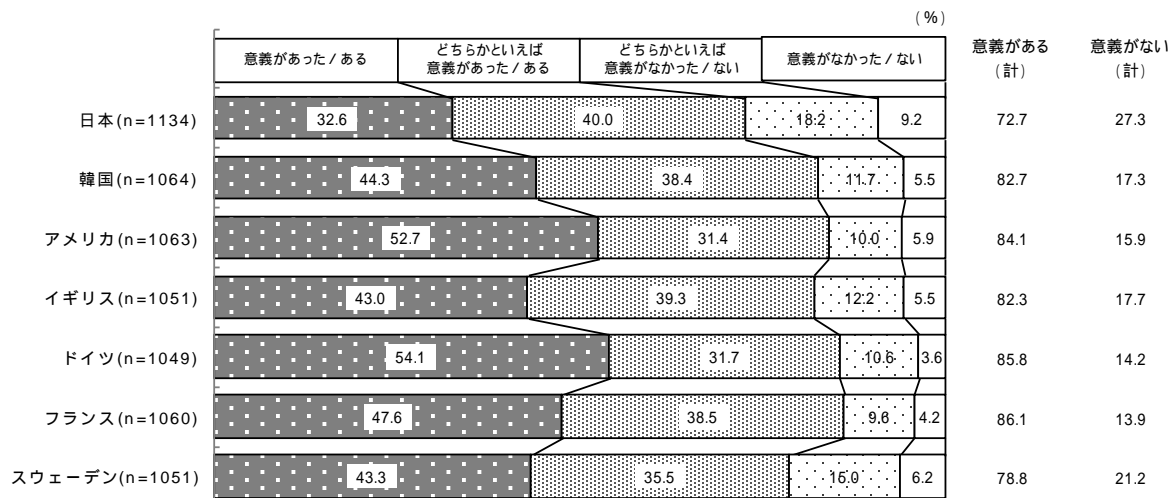
### Q48 (b) 専門的な知識を身に付ける



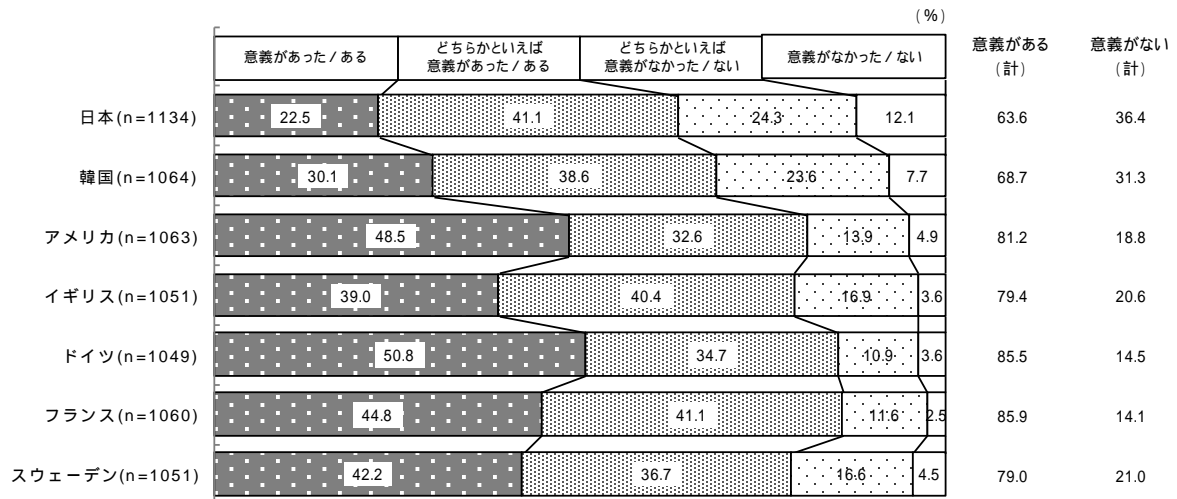
### Q48 (c) 仕事に必要な技術や能力を身に付ける



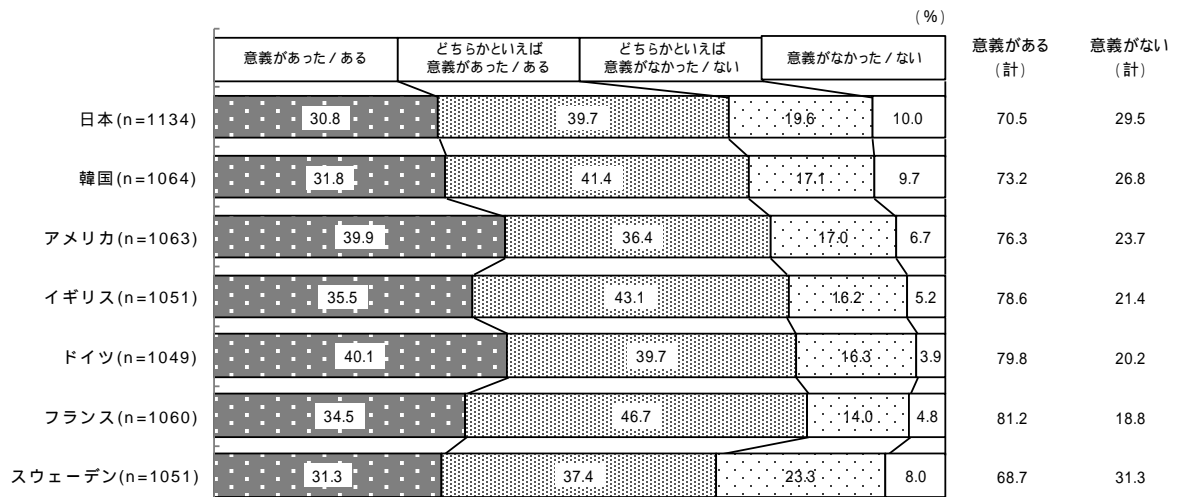
### Q48 (d) 学歴や資格を得る



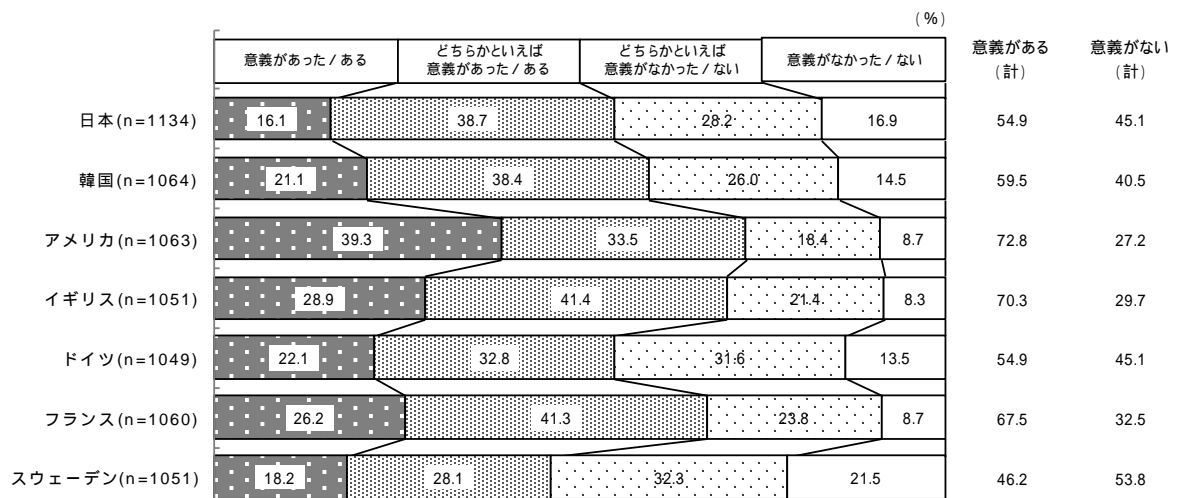
Q48 (e) 自分の才能を伸ばす



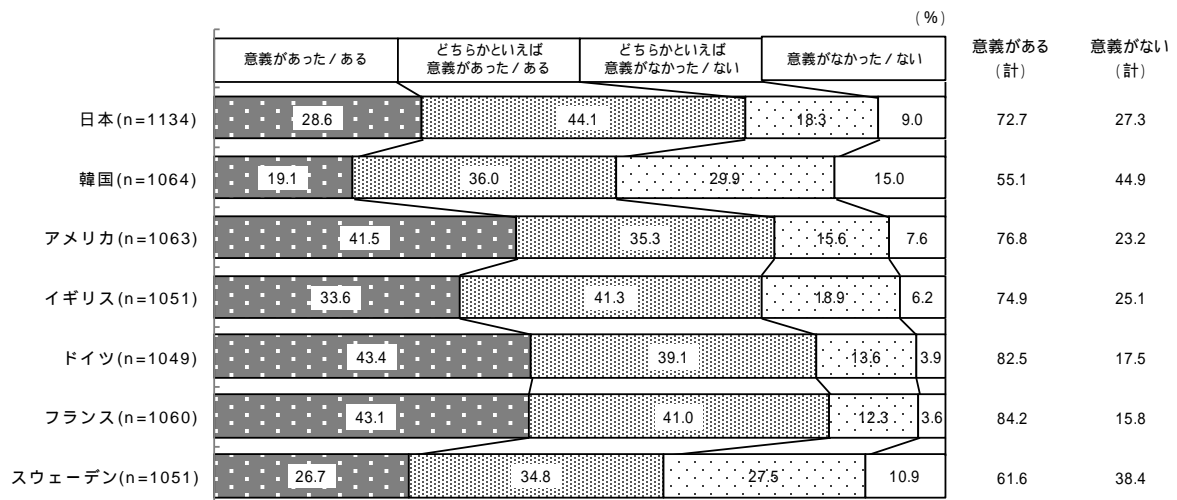
Q48 (f) 友達との友情をはぐくむ



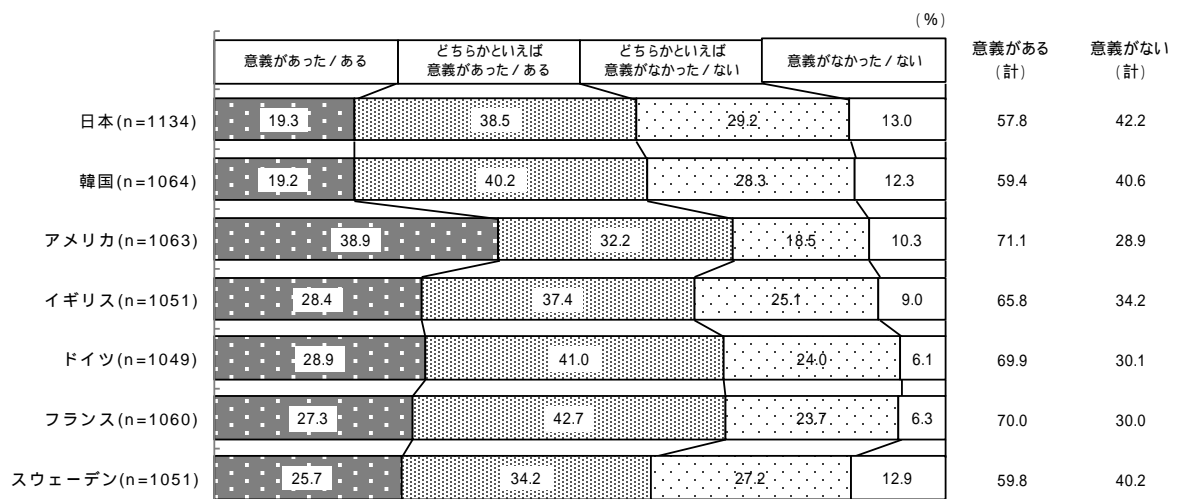
Q48 (g) 先生の人柄や生き方から学ぶ



Q48 (h) 自由な時間を楽しむ



Q48 (i) 課外活動に取り組む



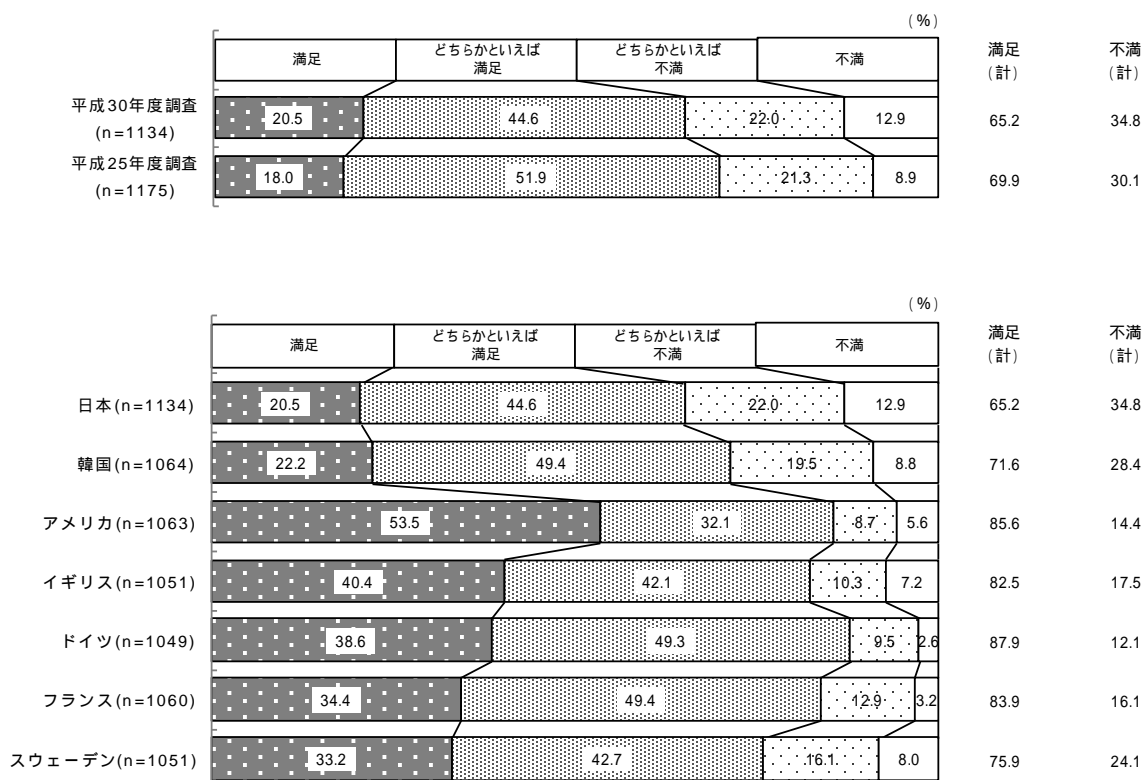
(2) 学校生活の満足度

Q49 あなたは、学校生活に満足していますか、それとも不満ですか。現在、学校へ行っていない方は、学校に行っていた時のことをお答えください。(回答は1つ)

学校生活の満足度を日本の若者に聞いたところ、学校生活に『満足』(「満足」と「どちらかといえば満足」の合計)と答えた割合は65.2%である。

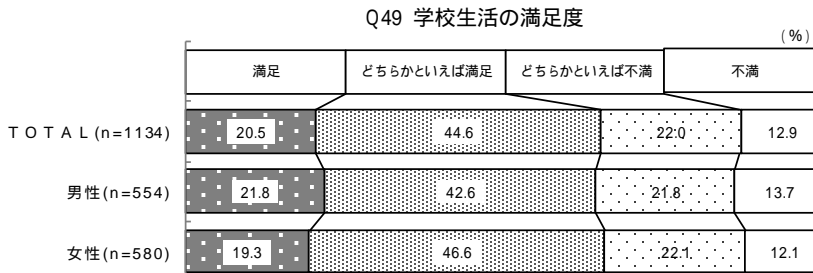
日本について平成25年度調査と比較すると、大きな差はみられない。

7か国比較でみると、いずれの国でも『満足』が多数を占めており、『満足』と答えた割合はドイツ(87.9%)が最も高く、次いでアメリカ(85.6%)、フランス(83.9%)、イギリス(82.5%)においても8割を超えている。また、スウェーデン(75.9%)、韓国(71.6%)、日本(65.2%)となっている。



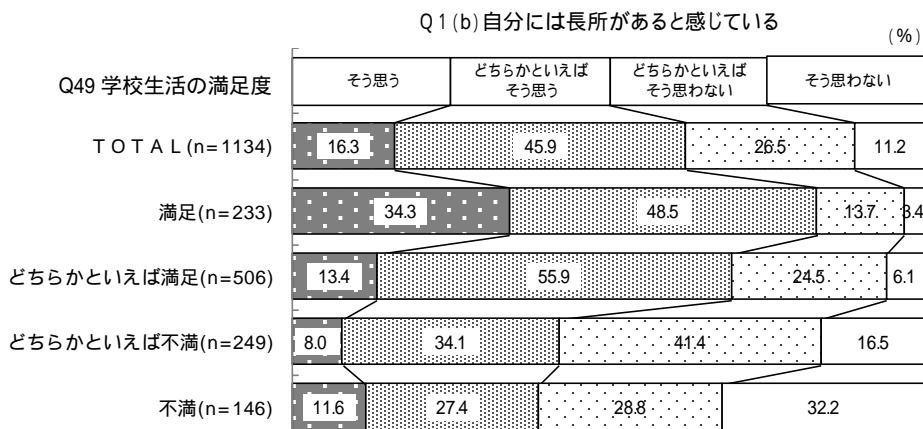
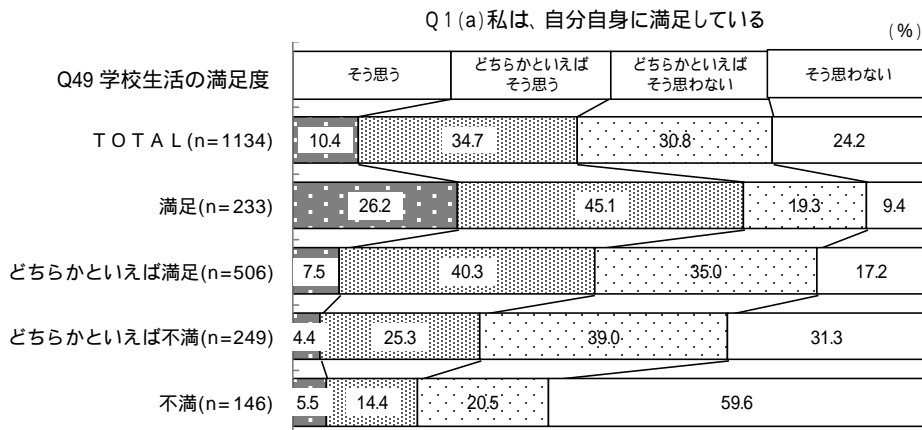
【分析】 学校生活の満足度に関連する意識

日本の若者が、学校生活に『満足』（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）と答えた割合（65.2%）は諸外国と比べて低い（123 ページ参照）。日本の若者について男女別にみても、学校生活の満足度は大きく変わらない。



これらの学校生活の満足度は、「自分への満足感」、「自分には長所があると感じている」にも関連していると考えられる。

学校生活の満足度が高いほど、「Q1(a) 私は、自分自身に満足している」、「Q1(b) 自分には長所があると感じている」において『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）と答えた割合が高い傾向にある。



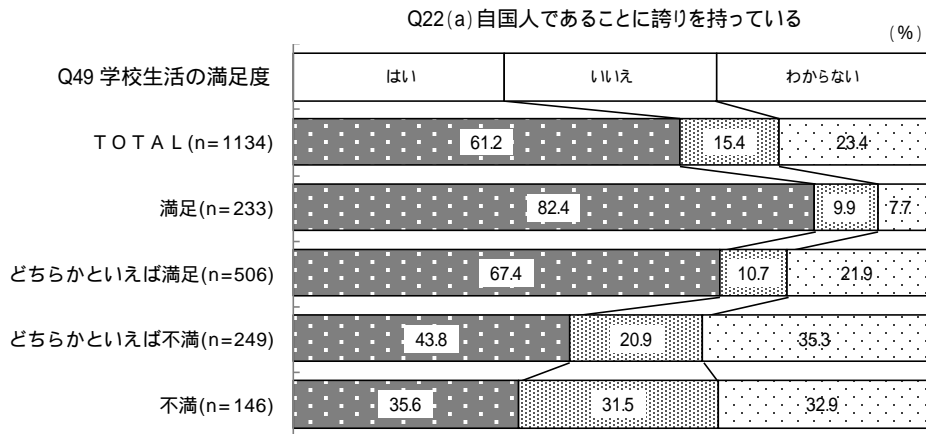
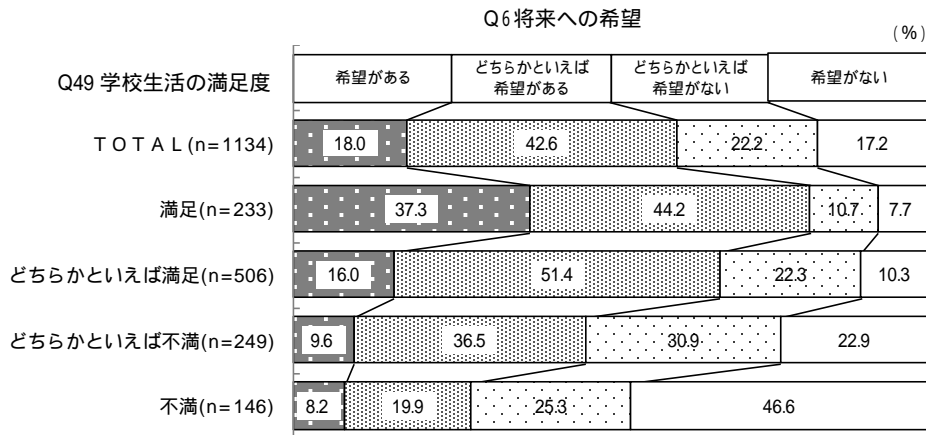
『Q49 学校生活の満足度』との相関

Q1(a) 私は、自分自身に満足している	.39	**
Q1(b) 自分には長所があると感じている	.36	**

\* 有意水準<.05, \*\* 有意水準<.01



また、学校生活の満足度が高いほど、「Q6 将来への希望」で『希望がある』（「希望がある」と「どちらかといえば希望がある」の合計）と答えた割合や、「Q22(a) 自国人であることに誇りを持っている」で「はい」と答えた割合が高くなる傾向にある。



『Q49 学校生活の満足度』との相関

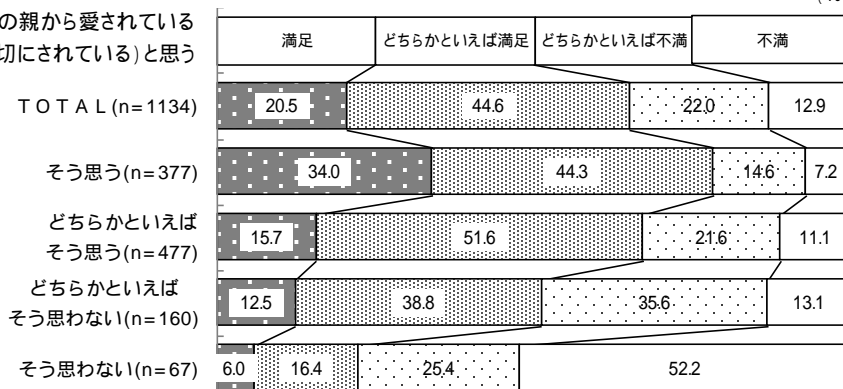
Q6 将来の希望	.39	**
----------	-----	----

\* 有意水準<.05, \*\* 有意水準<.01

さらに、「Q1(c) 自分の親から愛されている（大切にされている）と思う」で『そう思う』と答えた人、もしくは「Q58 家庭生活の満足度」で『満足』と答えた人は、学校生活の満足度にも『満足』と答えた割合が高い傾向にある。

Q49 学校生活の満足度

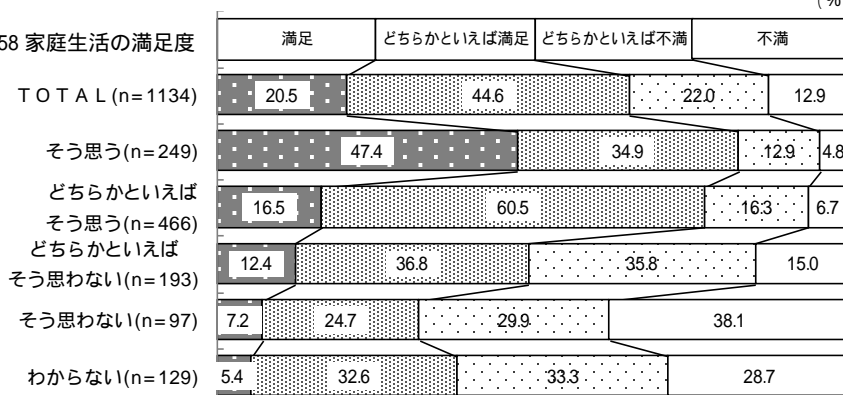
(%)

Q1(c) 自分の親から愛されている  
(大切にされている)と思う

Q49 学校生活の満足度

(%)

Q58 家庭生活の満足度



## 『 Q49 学校生活の満足度』との相関

Q1(c) 自分の親から愛されている (大切にされている)と思う	.33	**
Q58 家庭生活の満足度	.40	**

\* 有意水準&lt;.05, \*\* 有意水準&lt;.01

<参考>

「Q49 学校生活の満足度」を被説明変数とし、「Q1(c) 自分の親から愛されている(大切にされている)と思う」、「Q58 家庭生活の満足度」、「Q59 家庭で生活をする上で満足(c) 家庭内で争いごとがないこと」、「Q59 家庭で生活をする上で満足(j) 家族のだんらんや会話」を説明変数とした回帰分析の結果を以下に示す。

【学校満足度と家庭生活との関連(1134 サンプル)】

説明変数	被説明変数: Q49学校満足度			
	係数推定値	標準誤差	t値	p値
Q1 自己認識 (c)自分の親から愛されている(大切にされている)と思う	0.199 **	0.036	5.521	0.000
Q58 家庭生活での満足度	0.337 **	0.036	9.437	0.000
Q59 家庭で生活をする上で満足 (c) 家庭内で争いごとがないこと	-0.087	0.062	-1.387	0.166
Q59 家庭で生活をする上で満足 (j) 家族のだんらんや会話	0.019	0.065	0.284	0.776
自由度調整済み決定係数	0.189			
F値	55.998 (0.000)			

有意水準5%で有意のものは\*、有意水準1%で有意のものは\*\*で示している。

「Q58 家庭生活での満足度」ではわからないがあるため、ペアごとに除外して算出している。

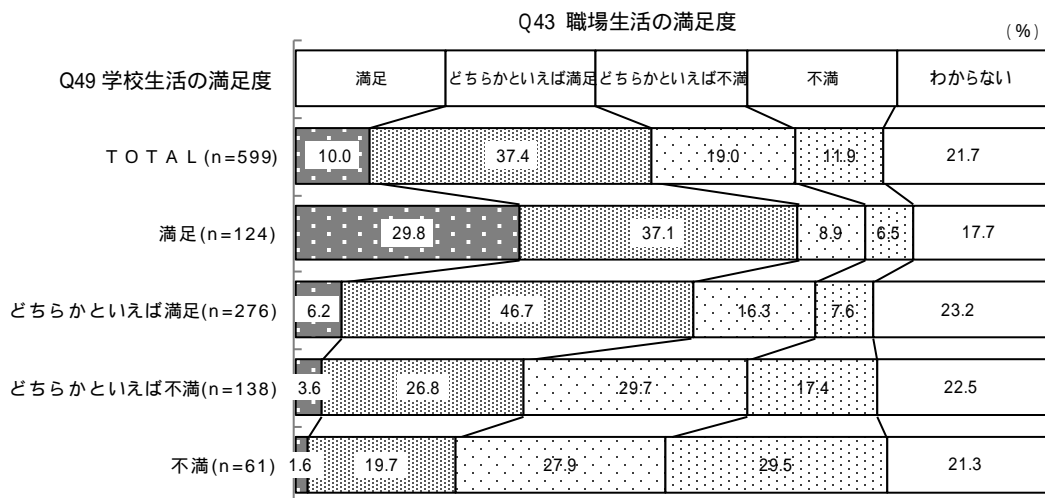
自由度調整済み決定係数...説明変数が被説明変数のどれくらいを説明できるかを表す値。0から1の間の値を取り、1に近いほど説明できる割合(説明力)が高い。

F値...説明変数で被説明変数を説明することの妥当性を示す値。

4つの説明変数のうち、「Q1(c) 自分の親から愛されている(大切にされている)と思う」、「Q58 家庭生活の満足度」は有意水準1%で有意、自由度調整済み決定係数は0.189、F値は55.998である。「Q1自己認識(c) 自分の親から愛されている(大切にされている)と思う」と「Q58 家庭生活での満足度」の係数は正である。

なお、決定係数の値が低いため、参考値とする。

既卒者についてみると、「Q49 学校生活の満足度」で『満足』と答えた人は、「Q43 職場生活の満足度」で『満足』と答える割合が高くなる傾向にある。



『Q49 学校生活の満足度』との関連

Q43 職場の満足度 41 \*\*

\* 有意水準<.05, \*\* 有意水準<.01

<参考>

日本の若者の学校生活の満足度に、どのような学校生活の意義が関連しているか検討するため、ここでは、既卒者を対象に「Q49 学校生活の満足度」を被説明変数とし、「Q48 学校に通う意義」を説明変数として回帰分析を行った結果を示す。

【「学校に通う意義」と「学校生活の満足度」との関連（既卒者 466 サンプル）】

説明変数	被説明変数: Q49学校満足度			
	係数推定値	標準誤差	t値	p値
Q48学校に通う意義 (a) 一般的・基礎的知識を身に付ける	-0.017	0.059	-0.282	0.778
Q48学校に通う意義 (b) 専門的な知識を身に付ける	0.035	0.063	0.560	0.576
Q48学校に通う意義 (c) 仕事に必要な技術や能力を身に付ける	0.017	0.061	0.282	0.778
Q48学校に通う意義 (d) 学歴や資格を得る	0.129 *	0.055	2.338	0.020
Q48学校に通う意義 (e) 自分の才能を伸ばす	-0.030	0.066	-0.451	0.653
Q48学校に通う意義 (f) 友達との友情をはぐくむ	0.216 **	0.057	3.805	0.000
Q48学校に通う意義 (g) 先生の人柄や生き方から学ぶ	0.123 *	0.055	2.238	0.026
Q48学校に通う意義 (h) 自由な時間を楽しむ	0.057	0.063	0.910	0.363
Q48学校に通う意義 (i) 課外活動に取り組む	0.071	0.059	1.191	0.234
自由度調整済み決定係数	0.219			
F値	15.498 (0.000)			

有意水準 5% で有意のものは\*、有意水準 1% で有意のものは\*\*で示している。

自由度調整済み決定係数...説明変数が被説明変数のどれくらいを説明できるかを表す値。0 から 1 の間の値を取り、1 に近いほど説明できる割合（説明力）が高い。

F値...説明変数で被説明変数を説明することの妥当性を示す値。

有意水準 5% で有意になったのは、「学歴や資格を得る」、「友達との友情をはぐくむ」、「先生の人柄や生き方から学ぶ」であり、係数はすべて正だった。また、この中では、「友達との友情をはぐくむ」の係数が大きいという結果であった。

なお、決定係数の値が低いため、参考値とする。

## 2 進学や費用負担

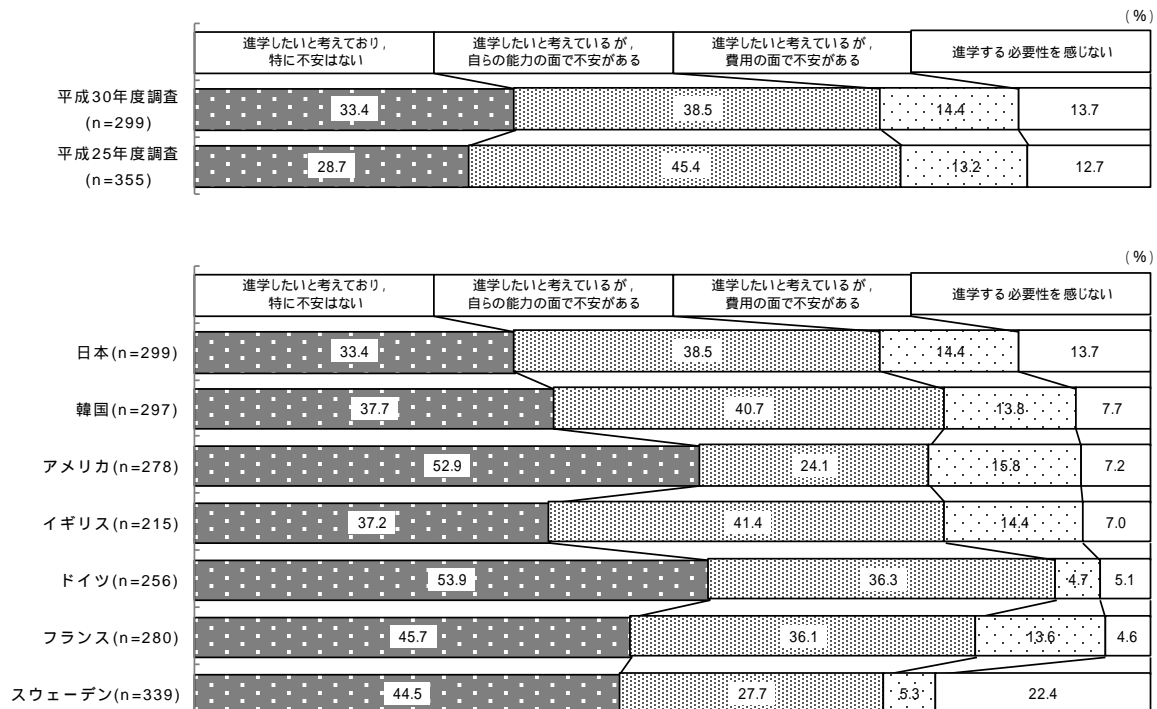
### (1) 大学など(高等教育機関)への進学について

Q50 大学など(高等教育機関)への進学について、あなたの考えに近いのは次のうちどれですか。  
あてはまるものを1つだけ選んでください。(回答は1つ)  
中学校または高等学校に在学中または休学中の人が対象

大学など(高等教育機関)への進学について日本の若者に聞いたところ、「進学したいと考えているが、自らの能力面で不安がある」(38.5%)と答えた割合が最も高い。次いで「進学したいと考えており、特に不安はない」(33.4%)、「進学したいと考えているが、費用の面で不安がある」(14.4%)となっている。「進学する必要性を感じない」は13.7%である。

日本について平成25年度調査と比較すると、「進学したいと考えているが、自らの能力面で不安がある」は6.9ポイント低くなっている。

7か国比較でみると、日本同様にイギリスと韓国では「進学したいと考えているが、自らの能力面で不安がある」(イギリス41.4%、韓国40.7%)と答えた割合が最も高い。一方、ドイツ、アメリカ、フランス、スウェーデンでは「進学したいと考えており、特に不安はない」(ドイツ53.9%、アメリカ52.9%、フランス45.7%、スウェーデン44.5%)と答えた割合が最も高い。また、スウェーデンでは「進学する必要性を感じない」と答えた割合が22.4%で、7か国の中で最も高い。



(2) 進学目的

Q51 進学の目的は何ですか。この中であてはまるものがありましたら、いくつでも選んでください。  
 (回答はいくつでも)  
 Q50で「進学したい」と回答した人が対象

進学の目的について日本の若者に聞いたところ、「学歴や資格を得る」(64.7%)と答えた割合が最も高く、次いで「専門的な知識を身に付ける」(52.7%)、「自分の才能を伸ばす」(44.2%)となっている。

7か国比較でみると、日本と同様、フランス、韓国、ドイツ、スウェーデンでは「学歴や資格を得る」(フランス60.7%、韓国60.2%、ドイツ60.1%、スウェーデン58.9%)と答えた割合が最も高い。一方、アメリカとイギリスでは「専門的な知識を身に付ける」(アメリカ65.1%、イギリス58.0%)と答えた割合が最も高い。

日本と比べると他の国では「高所得を得るため」(アメリカ51.9%、フランス49.8%、ドイツ46.5%、スウェーデン41.8%、韓国31.8%、日本21.3%)と答えた割合が高い。

日本について平成25年度調査と比較すると、上位3項目の順位に変わりはない。「学歴や資格を得る」は5.3ポイント高くなっている。一方、「自分の才能を伸ばす」は6.8ポイント低くなっている。また、上位項目ではないが、「自由な時間を楽しむ」(22.1%)は前回13.5%から8.6ポイント高くなっている。

	日本 (n=258)	韓国 (n=274)	アメリカ (n=258)	イギリス (n=200)	ドイツ (n=243)	フランス (n=267)	スウェーデン (n=263)	平成25年度調査 (n=310)
専門的な知識を身に付ける	52.7	46.4	65.1	58.0	54.3	50.2	48.3	52.9
職業的スキルを身に付ける	37.6	38.0	55.0	50.5	51.4	46.1	53.6	34.8
学歴や資格を得る	64.7	60.2	58.5	55.5	60.1	60.7	58.9	59.4
自分の才能を伸ばす	44.2	39.1	48.4	43.0	50.2	39.7	38.8	51.0
高所得を得るため	21.3	31.8	51.9	38.5	46.5	49.8	41.8	21.0
自由な時間を楽しむ	22.1	9.9	22.9	17.0	14.4	11.6	24.0	13.5
周りの人が進学するから	14.0	19.7	14.7	13.0	11.5	6.7	8.4	12.3
人脈を作る	13.2	13.9	15.5	7.5	4.9	6.7	13.3	
その他	1.9	3.3	1.6	0.5	0.4	-	1.1	1.3
わからない	5.0	4.4	3.9	3.5	1.2	3.7	2.7	5.8

(%)

### (3) 教育費の負担

Q52 教育にかかる費用を負担することについて、あなたの考えに近いのは次のうちどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。(回答は1つ)

教育にかかる費用負担について日本の若者に聞いたところ、「基本的には、社会全体で費用を負担すべき」と答えた割合が46.2%、「基本的には、本人またはその親が費用を負担すべき」と答えた割合が36.2%である。

日本について平成25年度調査と比較すると、「基本的には、社会全体で費用を負担すべき」は5.9ポイント高く、「基本的には、本人またはその親が費用を負担すべき」は6.4ポイント低くなっている。前は「基本的には、本人またはその親が費用を負担すべきだ」と答えた割合が最も高かったが、今回は「基本的には、社会全体で費用を負担すべき」と答えた割合が最も高くなっている。

7か国比較でみると、アメリカでは「基本的には、本人またはその親が費用を負担すべき」(46.9%)と答えた割合が最も高い。一方、その他の国では「基本的には、社会全体で費用を負担すべき」(スウェーデン63.7%、ドイツ60.7%、フランス53.0%、韓国51.2%、イギリス48.7%)と答えた割合が最も高い。

